

風ばかり

豊島与志雄

青空文庫

——皆みなさんは、人間の身からだ体は右と左とまったく同じだと、思っ
ていますでしょう。右と左とにそれぞれ、眼めが一つ、耳が一つ、
鼻はなが半分、口が半分、手が一つ、足が一つ……。まんなかから切
ってみると、右と左とは、まったく同じように見えます。ところ
が、よくしらべてみると、ずいぶんちがっています。いくら神かみさ
様までも、生きた人間の身からだ体を、右と左とまったく同じにこさえ
ることは、おできにならなかつたのでしよう。自分の顔かおやひとの
顔かおを、よく見てごらん下さい。眼めでも耳でも、右と左では、その

大きさや形がみなちがっています。右と左と同じなものは、けっしてありません。手なんか、大きさも長さもちがうし、力もちがいます。ことに、胸むねの中や腹はらの中になると、右と左とはひどくちがってるものです。それですから、たとえば、目かくしをして、広いところを、歩いてみてごらんなさい。けっしてまっすぐに歩けるものではありません。自然しぜんに、右か左かにまがつてしまえます。人間は、どんなりっぱな身体からだのひとつでも、右と左とはかたわです……。

そういう話を、先生がなさいました。

なるほど、よく見ると、眼めでも耳でも、右と左とは同じ形ではありません。

おかしいな、と子供たちは思いました。

が、なおおかしいのは、目かくしをしてまっすぐに歩けないことでした。自分ではまっすぐに歩いてるつもりでも、いつのまにか少しずつ、右か左かへまがってしまいます。

「みんなかたわだ」

「なに、かたわなもんか」

「じゃあ、野原にいつてやってみよう」

「ようし。みんなこいよ」

広いたいらな野原でした。春さきのこととて、日がうららかに
つています。芝しばくさ草が青々とのびだしています。蝶ちようがとんでいま
す。空には高く、雲雀ひばりがなっています。

みんなでじゃんけんをして、勝かつたものが一番先さきに、ハンケチ
で目かくしをして、まっすぐに歩きだしました。ほかの者は立っ
て見ています。

目かくしをした者は、まっすぐに歩いてるつもりですが、やが
て、右か左かに少しずつまがっていききます。それを見ると、みん
なはわつとはやしたてました。けれど、笑わらった者もみな、自分の
番になると、やはりまっすぐには歩けませんでした。

「こんどは僕ぼくだ、見ておれよ」

元気よくそういつて、マサちゃんという子供が、目かくしをして、歩きだしました。

広い野原の中です。オイチニ、オイチニ……と調ちようし子をとつて
まっすぐに歩いていきます。

遠とおくなるにつれてだんだん小さく、帽子ぼうしの下に白いハンケチの
目かくしをしたその後うしろすがた姿が、まるで人形のように……そして
ふしぎにも、まっすぐに歩いていきます。

だいぶ行ってから、くるりと向きむなおって、目かくしを取って、
「どうだい」

見ていた子供たちは、はじめびっくりして、ぼんやりして、そ
れから急きゆうに手をたたいてほめました。

マサちやんはもどつてきました。

「君^{きみ}たちは、ただまつすぐに歩こうとばかりしてるからだめだ。

自分のくせを知つて、練^{れん}習^{しゅう}しなくちやいけないよ」

そこでみんなは、マサちやんに教^{おそ}わつて、まつすぐに歩^{れん}く^し習^{ゆう}をしました。まず、自分は右か左かに、どのくらいまがるく

せがあるか、それをたしかめて、それから目かくしをした時は、それだけ逆^{ぎやく}にまがる気持^{きもち}で歩^{ある}く……。ところが、それがじつさいはひどくむずかしくて、なかなかうまくいきませんでした。

日が西にかたむいて、森のかげがうすぐらくなりはじめました。風がでてきました。

「今日はこれだけにしておこう。僕ぼくがも一度ど歩いてみせるから、よく見ておけよ」

マサちゃんは目かくしをして、さいごにも一度ど見せてやるというようすで、歩きだしました。

それが、どうしたのか、少しいってまがりだしました。

一かたまりになって見ていた者たちは、すぐに声をたてました。

「まがった、まがった……」

マサちゃんは目かくしを取りました。

「ほんとにまがったのかい」

「まがったとも。いばつてたくせに、なーんだい」

マサちゃんはくやしがりしました。そしてまたやりなおしましたが、やはりうまくいきません。

「ああわかった。風が吹ふいてるからいけないんだ。よし、こんどはうまくやってみせる」

だんだんひどくなつて、横よこから吹ふきつけてくる風を、マサちゃんふへいは不平ふへいそうにながめて、それから決心して、目かくしをして歩あきだしました。

自分の足のくせと、横よこから吹ふいてくる風の力とを、マサちゃんあたまは頭あたまにおいて、けんめいにまつすぐに歩あこうとしました。風は時ときをおいてさーつと吹ふきつけてきました。

——風にまけてなるものか。

マサちゃんは齒はをくいしばって、進すすんでいきました。

「ばかー……」

おや、と思ったが、気のせいのようにでした。けれど、またさーつと吹ふいてくる風が、顔かおをなでて、目かくしのハンケチの下の耳もとで、

「ばかー、ばかー……」

マサちゃんはがまんしました。

それでも風は、また吹ふきつけてきて、耳もとで声をたてました。もうしんぼうができませんでした。いきなりどなり返かえしてやりました。

「ばか、ばかー」

風もどなりました。

「ばかー、ばかー」

マサちゃんも声をはりあげてどなりました。

「ばか、ばかー」

見ていた子供たちはびつくりしました。かけていって、マサちゃんをひきとめました。が、マサちゃんは、目かくしを取られても、風が吹いてくると、その方へ向いてどなりました。

「ばかー、ばかー」

みんな心配しました。マサちゃんが気狂になつたのだと思
いました。そしてむりに、家へ連れかえりました。途中でも、

マサちゃんは風に向つて、^{むか}「ばか、ばかー」とどなっていました。

四

家にかえつて、しずかな室^{へや}の中におちつくと、マサちゃんはもうどなりもせず、夢^{ゆめ}からさめたように、きよとんとしていました。お父さんとお母さんが、心配^{しんぱい}そうにマサちゃんの様子^{ようす}をながめました。

「どうしたんですか」とお母さんがたずねました。

マサちゃんは、目かくしをしまつすぐに、歩きつこをしたことを、話しました。それから風のこと——。

「風が、ばかー、ばかー——とわるくちをいうから、僕も、ばかー……といいい返してやったんです」

お父さんは笑いました。

「それは、お前の方がばかだよ。風にさからつてもつまらない。風というものは、強くなったり弱くなったり、息をついて吹くから、その中をまっすぐに歩くのはむずかしいよ。木の葉だって、まっすぐに落ちたり、ななめに吹きとばされたりしてるじゃないか」

硝子戸の外には、まだ風が吹いていました。庭のすみにある榎ガラスドの木の古葉が、一つ二つ散つていました。風に吹かれて横にとんでるかと思うと、風がちよつと息をする間、まっすぐに落ちます。

かと思うと、またさーつと風がきて、葉はひらひらと吹きとばさ
れます……。

「風って、息をするんですか」とマサちゃんはいいました。

「うむ、息をするよ。息をするというより、風は息なんだよ」

「なんの息？」

「なんの息って……。どういったらいいかなあ、空気の息、神

様の息、いろんなものの息……ただ息だよ」

「ただ、息だけ？」

「息だけだよ」

「ばかな奴だな」

お父さんは声たかく笑いしました。マサちゃんもお母さんもいつ

しよに笑わらいました。

硝子戸ガラスドの外には、椎しいの葉はがときどき散ちつています。小鳥が鳴ないています。夕方の赤い日が空にさしています。そして風は、息いきを
ついてはさーッさーッと吹ふいています……。

「ばかな風だな」

マサちゃんははればれと笑わらいました。

青空文庫情報

底本：「天狗笑い」晶文社

1978（昭和53）年4月15日発行

入力：田中敬三

校正：川山隆

2006年12月31日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

風ばか

豊島与志雄

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>